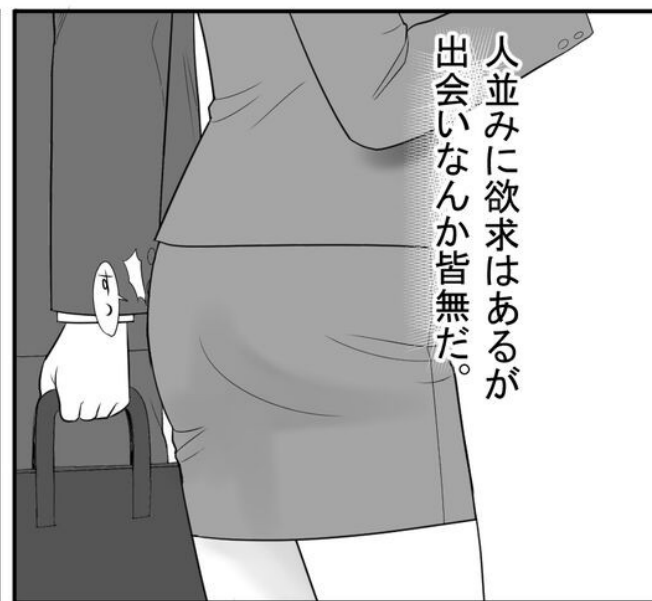
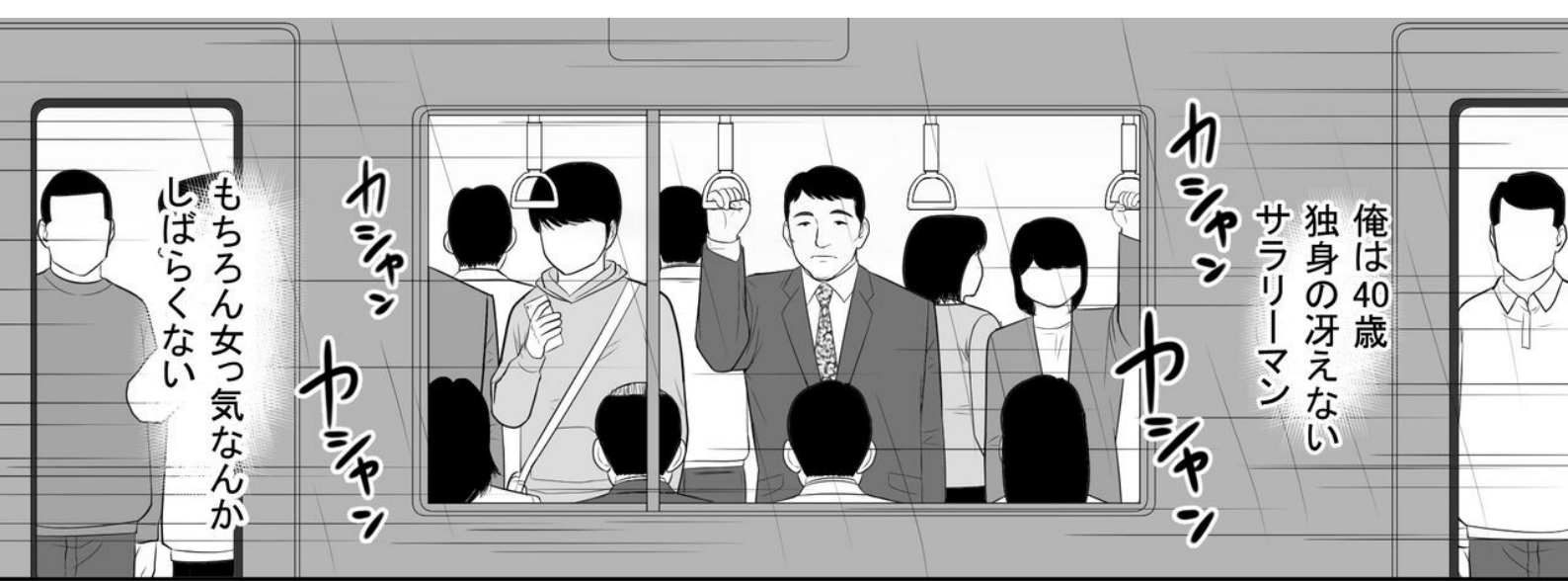


おっさんの俺の家に
何故か住み着いた

オナホのような女の子



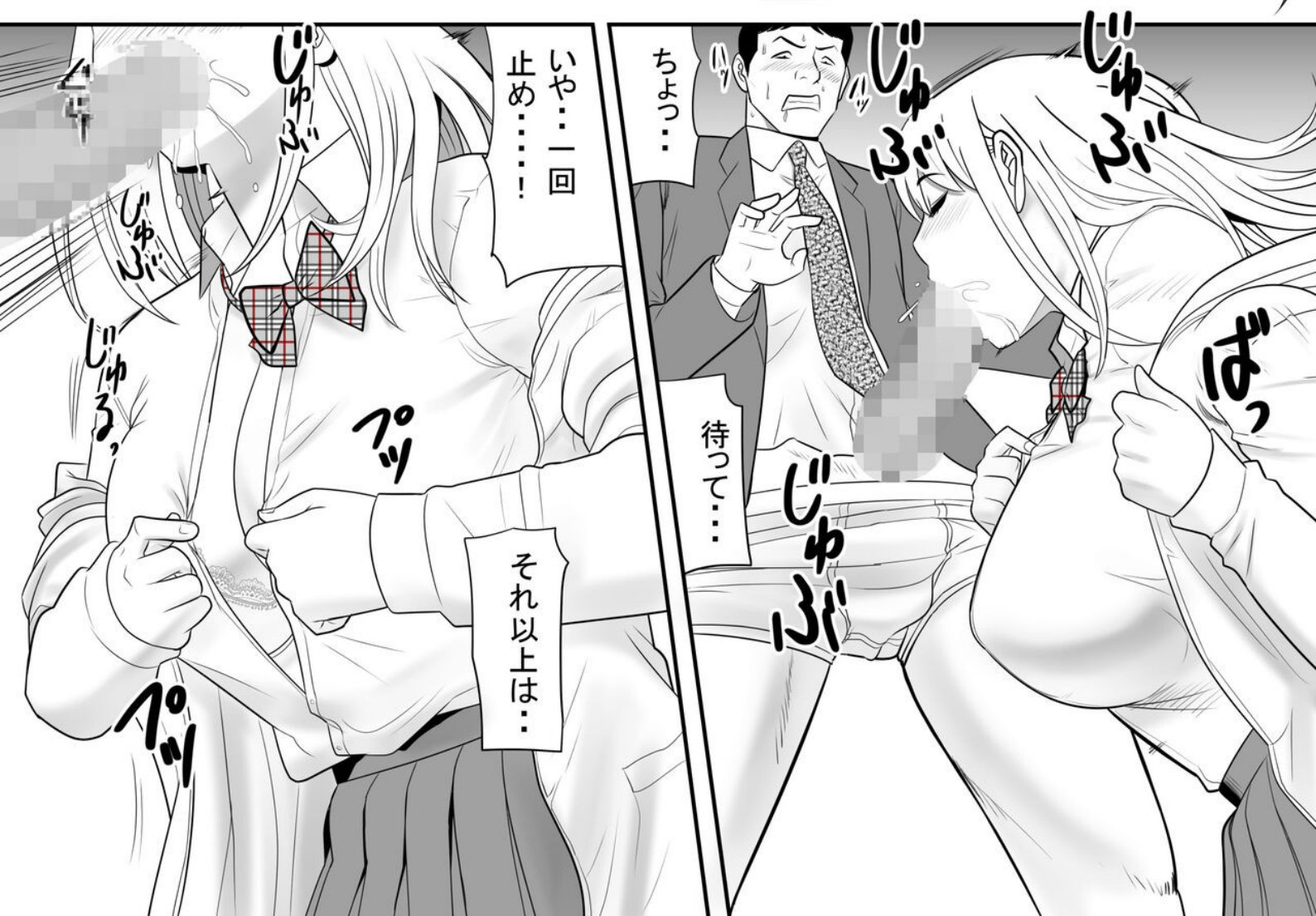


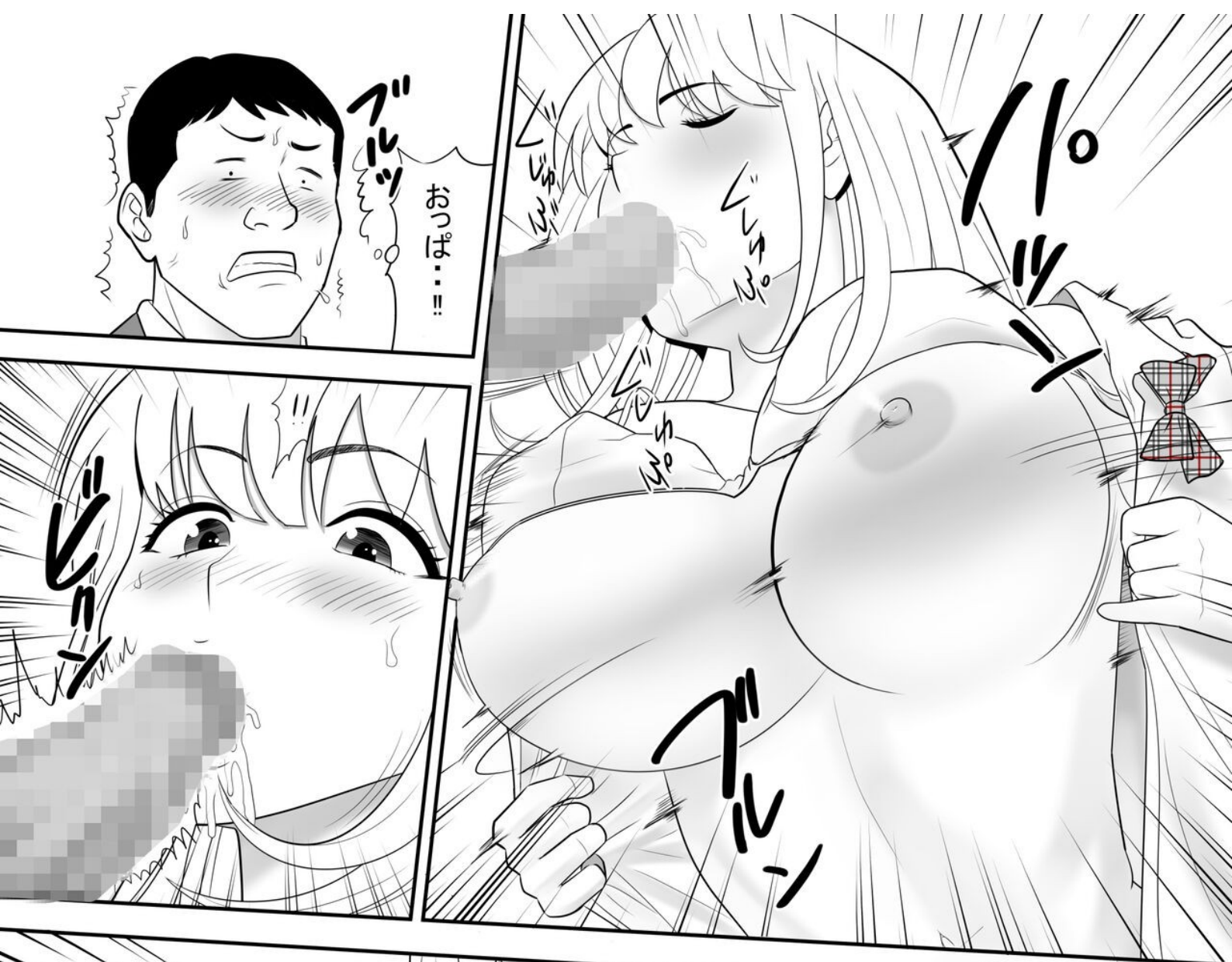


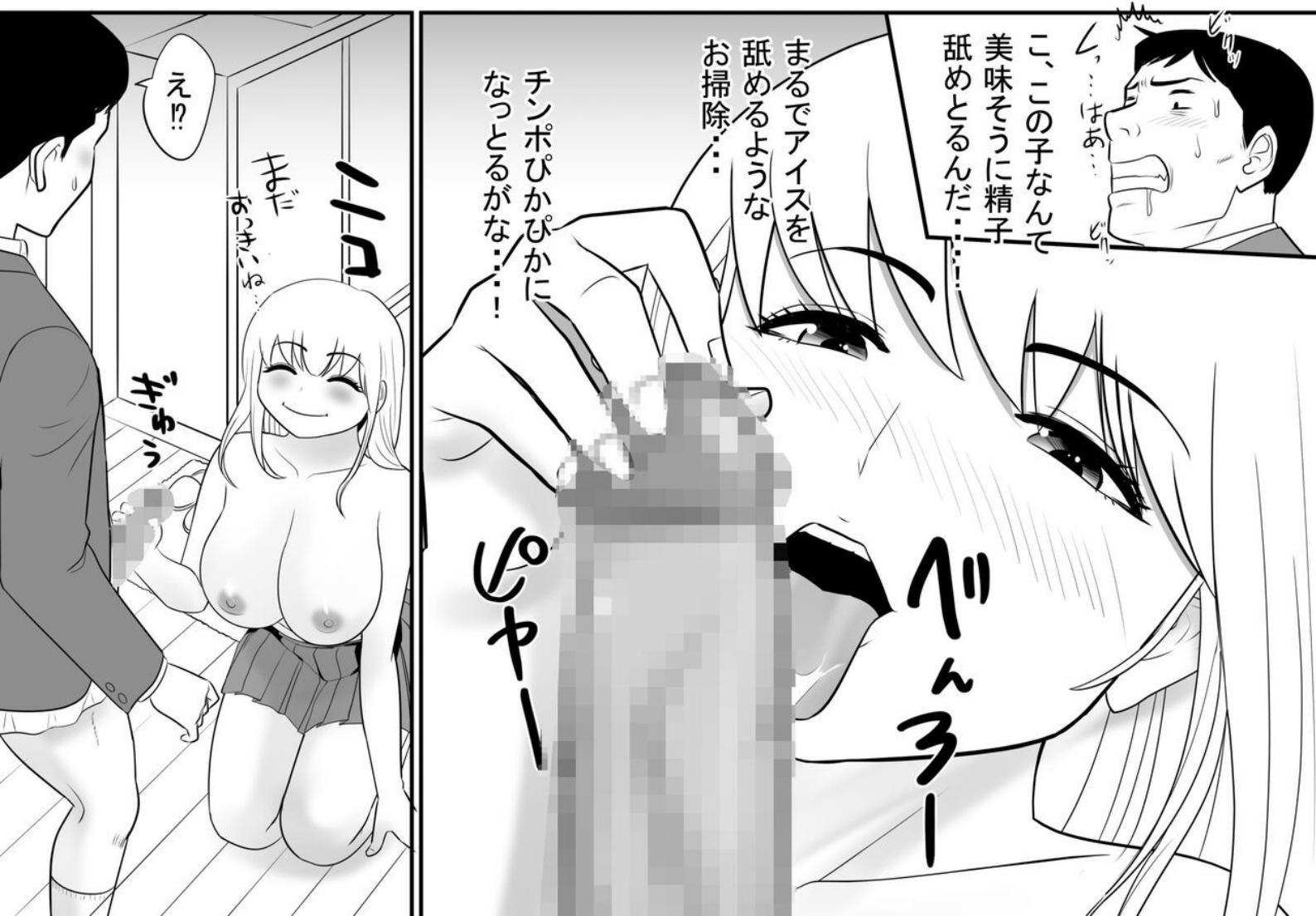
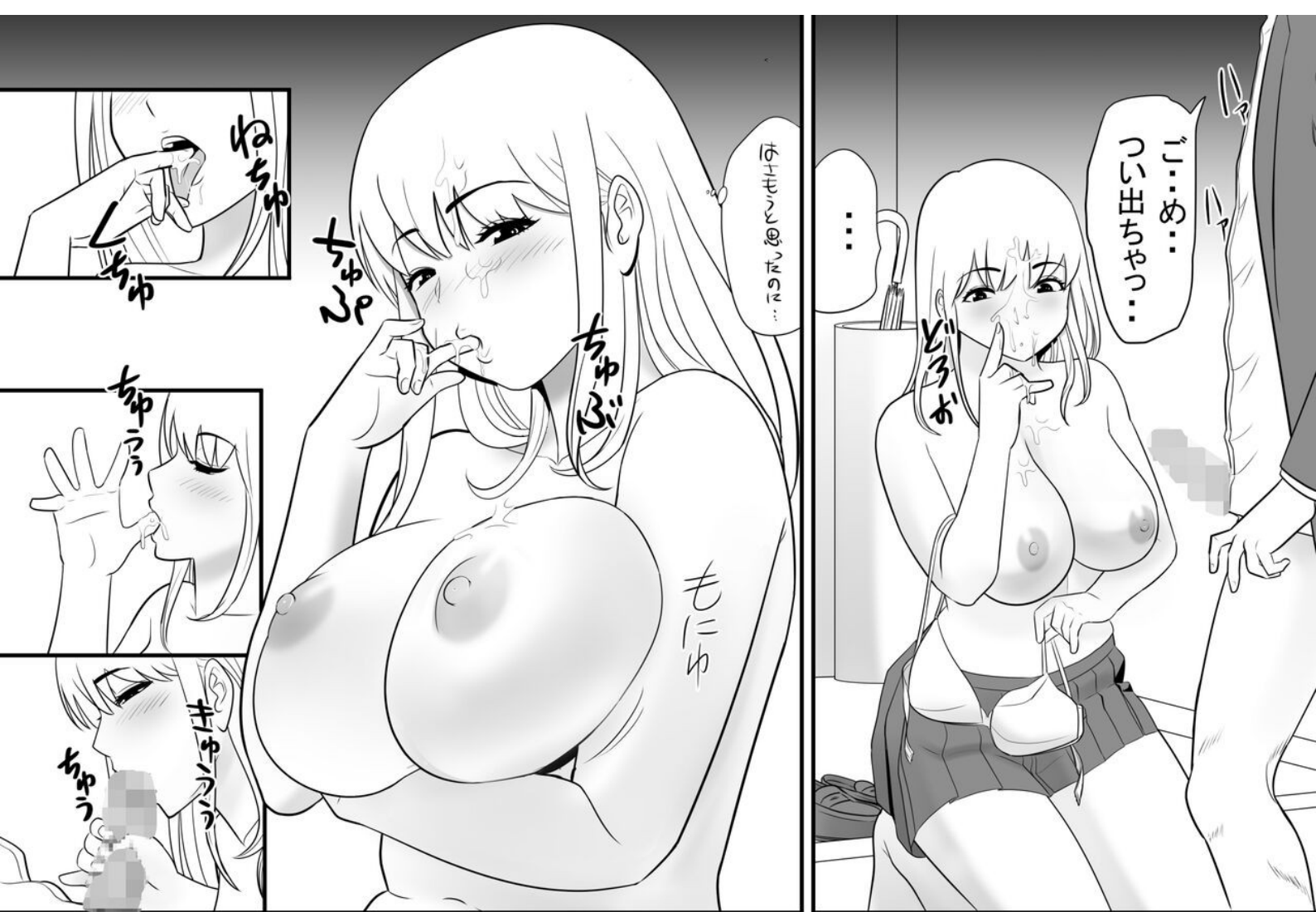




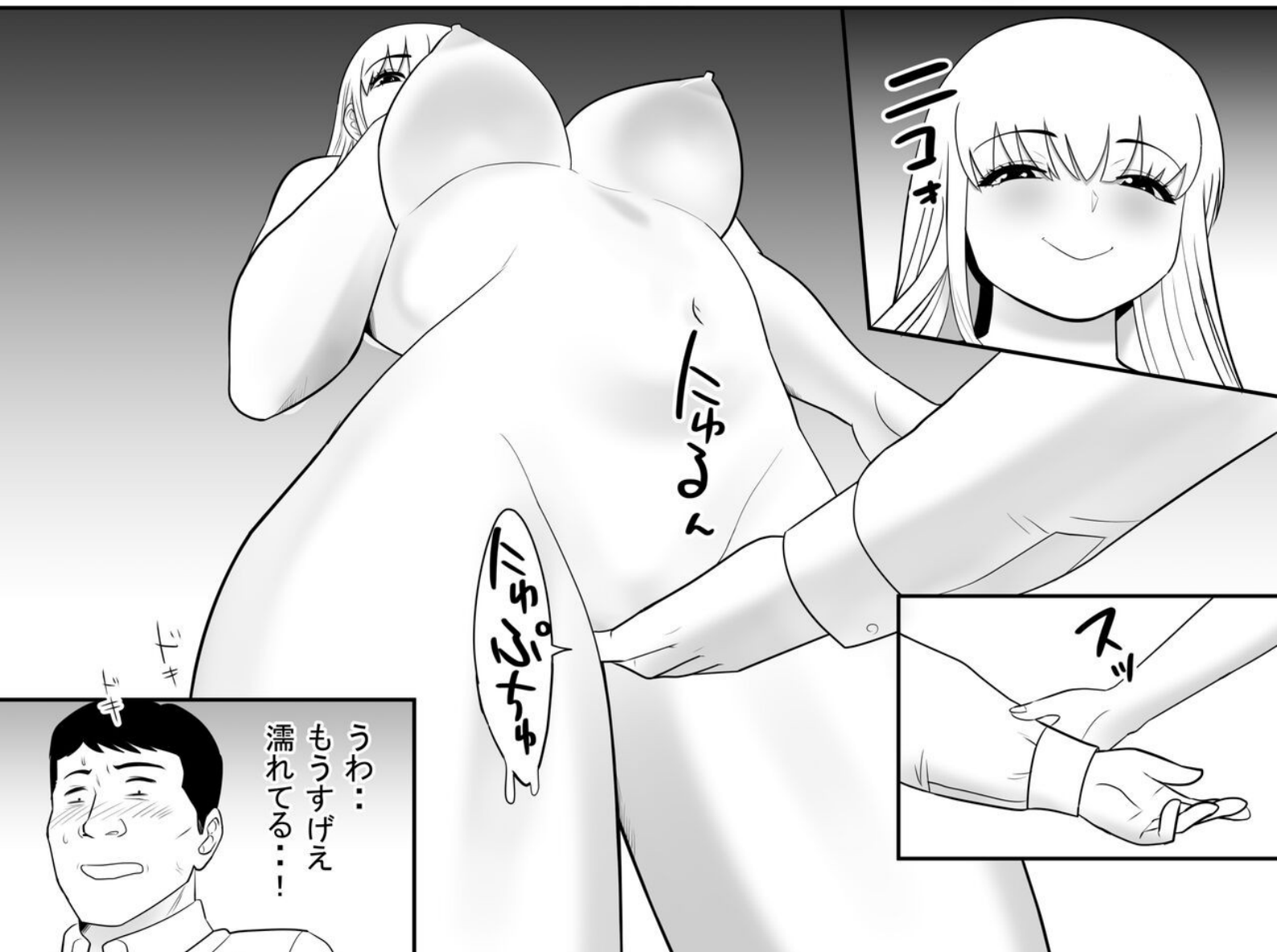






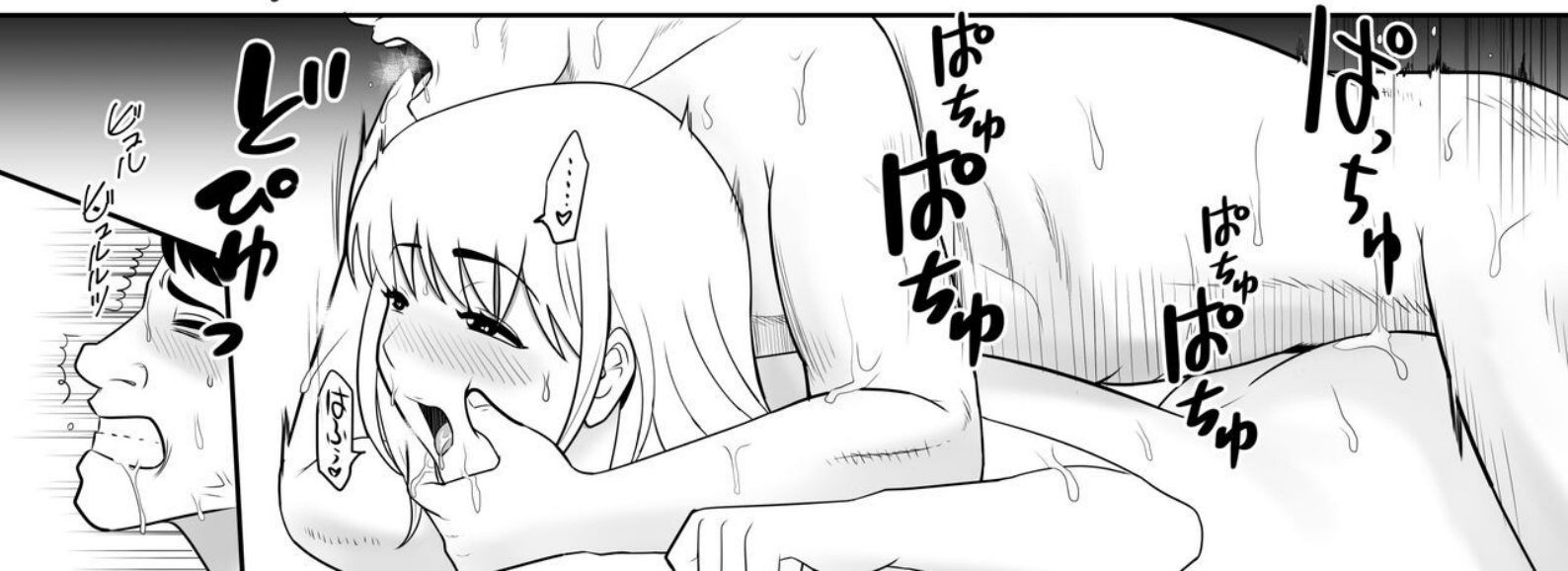
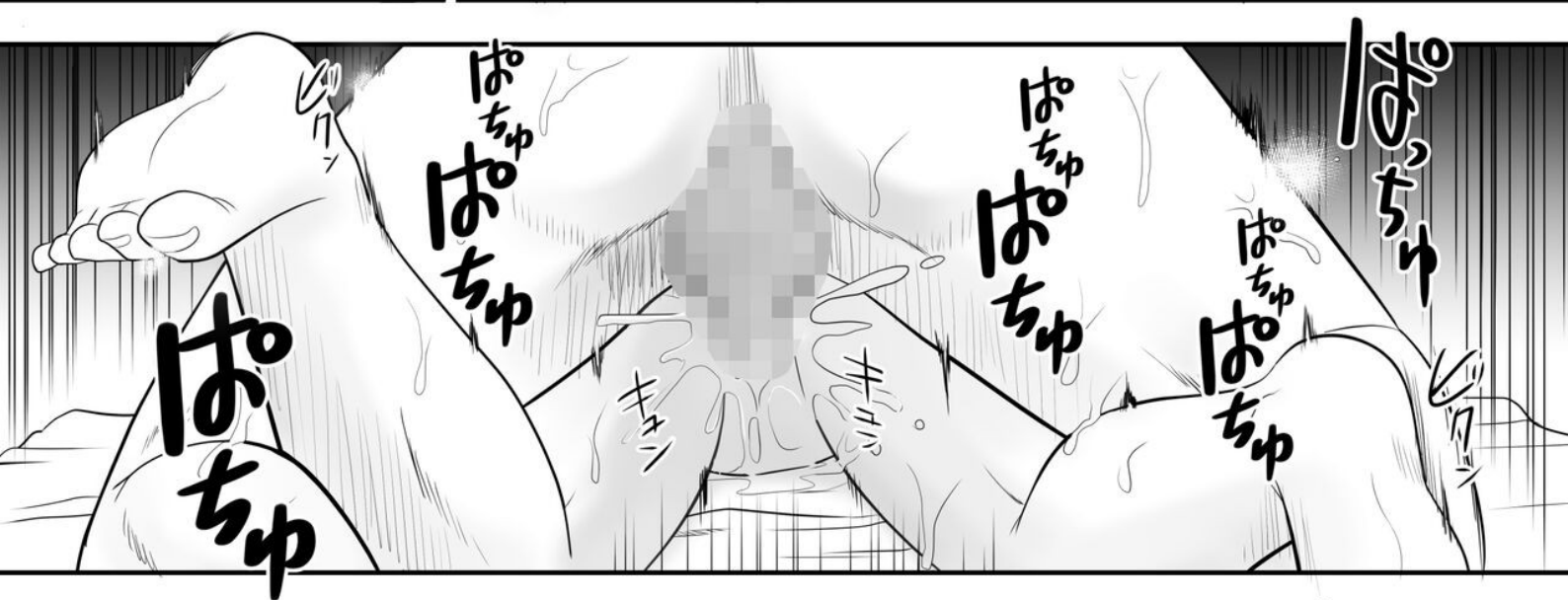




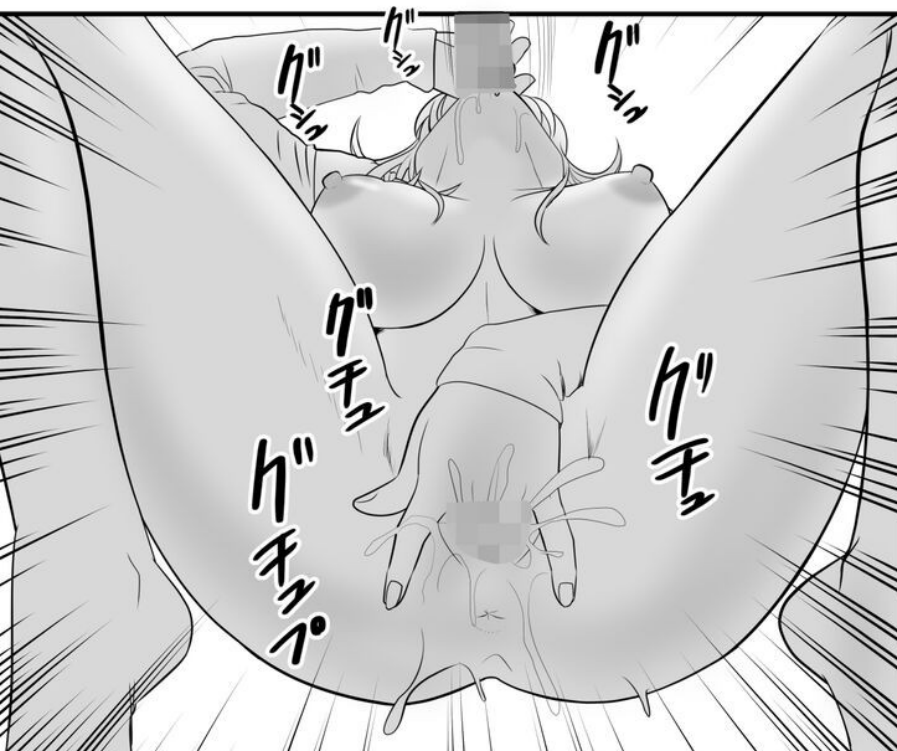


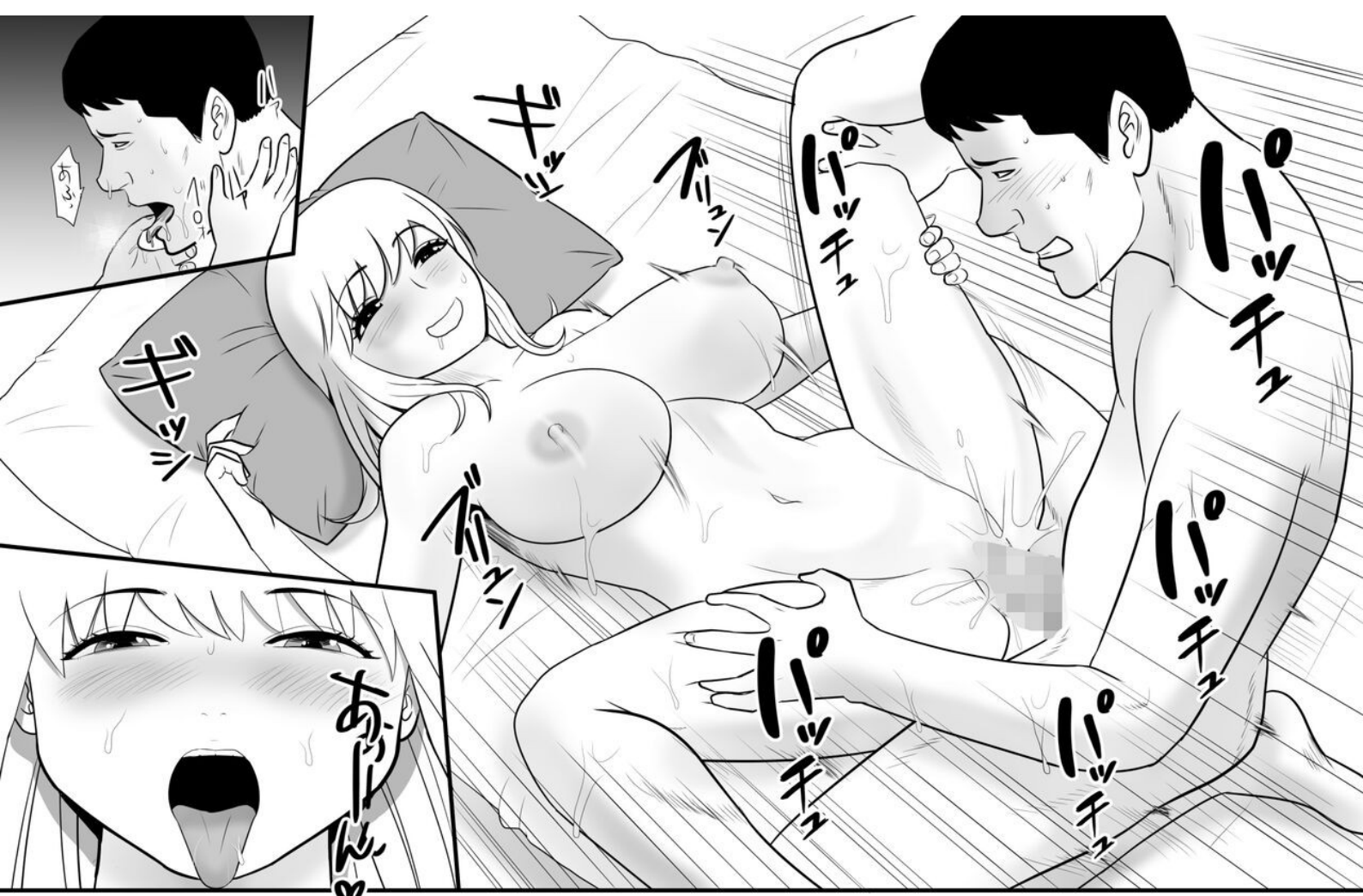












それから彼女は
何が入ったのか
しよっちゅうウチに
来るようになった。

じゅるるる

ちゅー...

ちゅー...
ちゅー...
ちゅー...

親は放任で
友達の家に泊ると
言えば問題ないのだ
という。

彼女はかなり無口で
何を考えているのか
わからなかったのだが

嫌われては

いないようだった。

ハッモ

ハッモ

彼女が来た日は

セックスしながら飯を食い

風呂に入ってセックスし

寝落ちするまで

ハメまくった。

自分でもよくこれだけ

勃つものだと

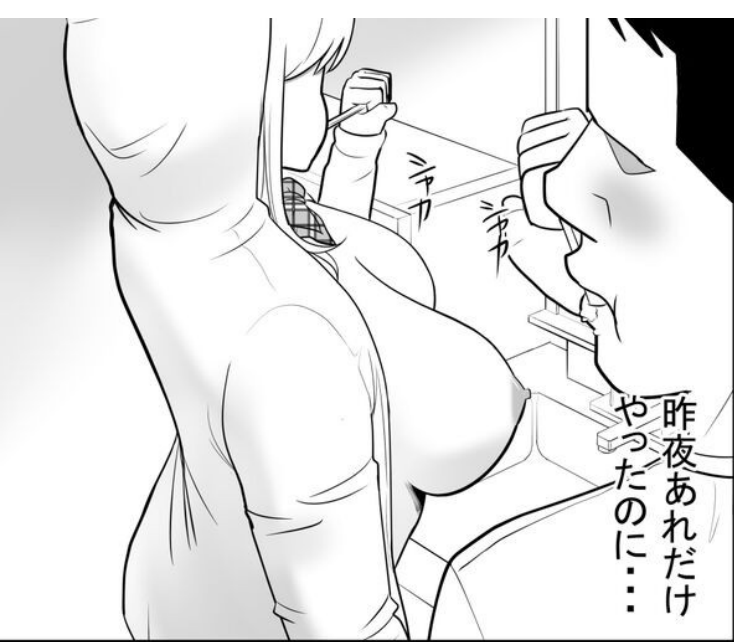
驚いたりした。

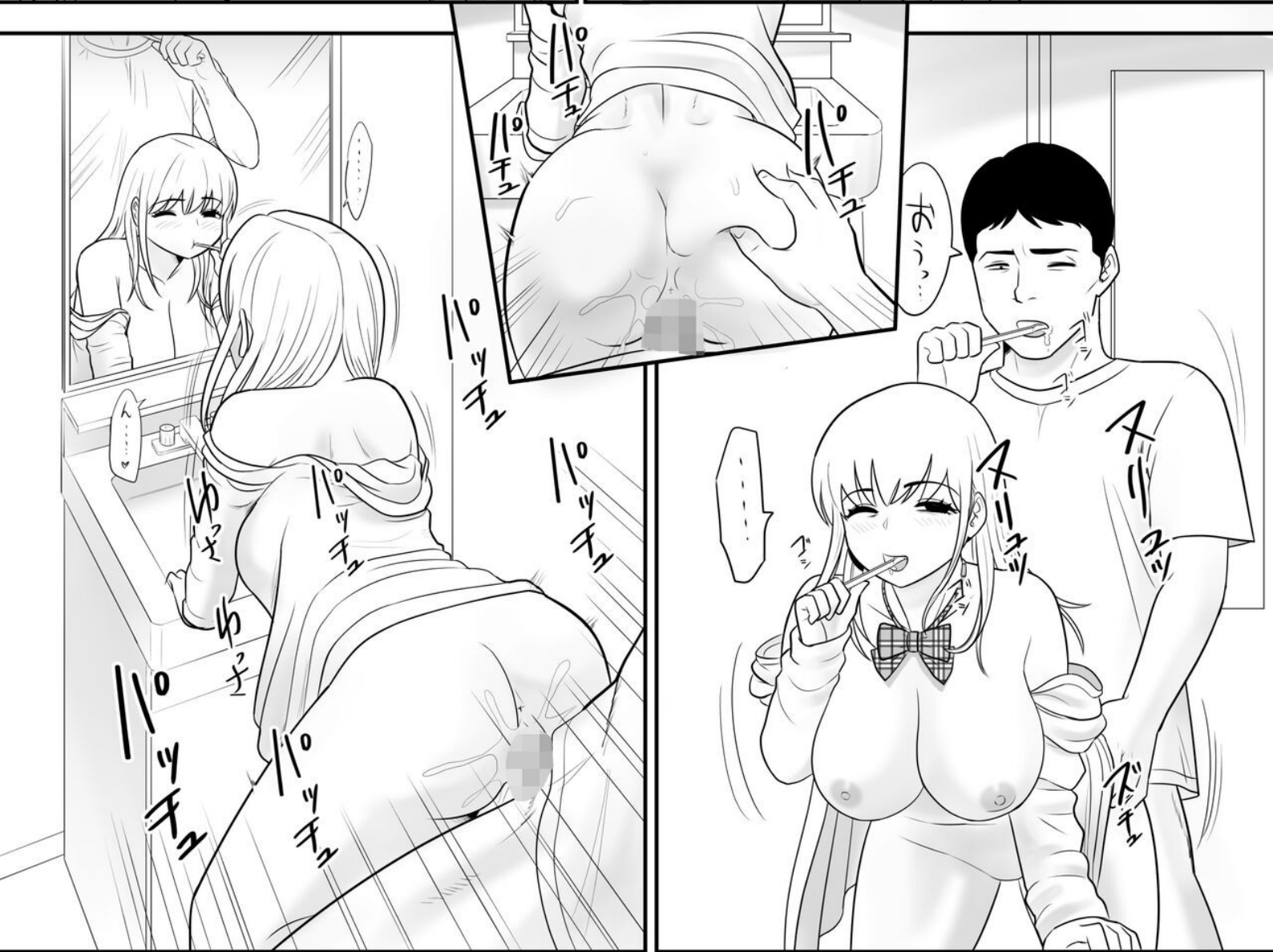
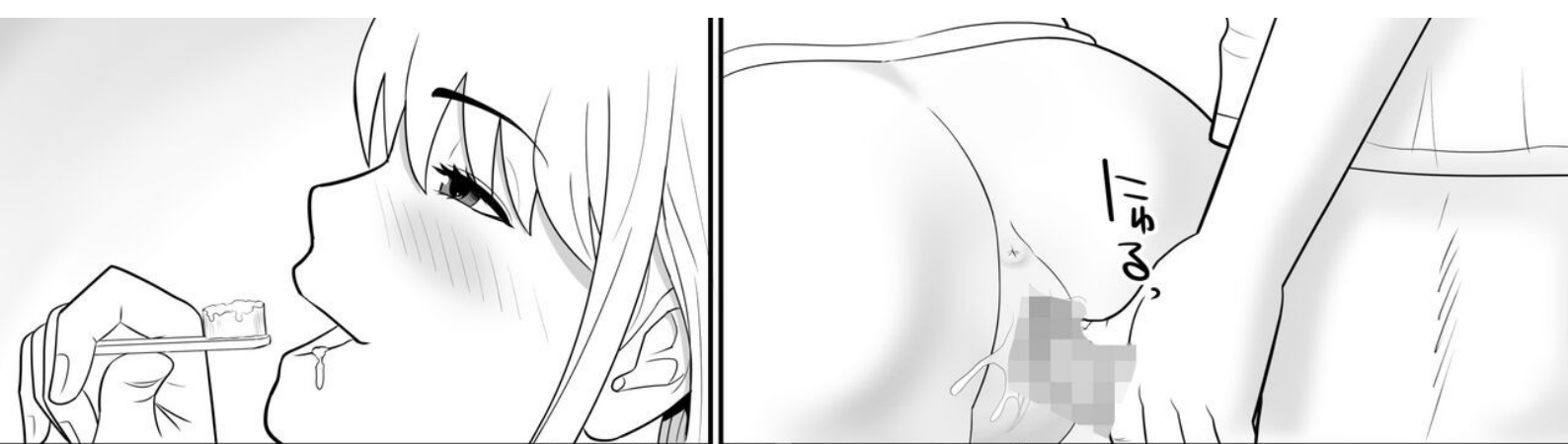
入ったまま寝

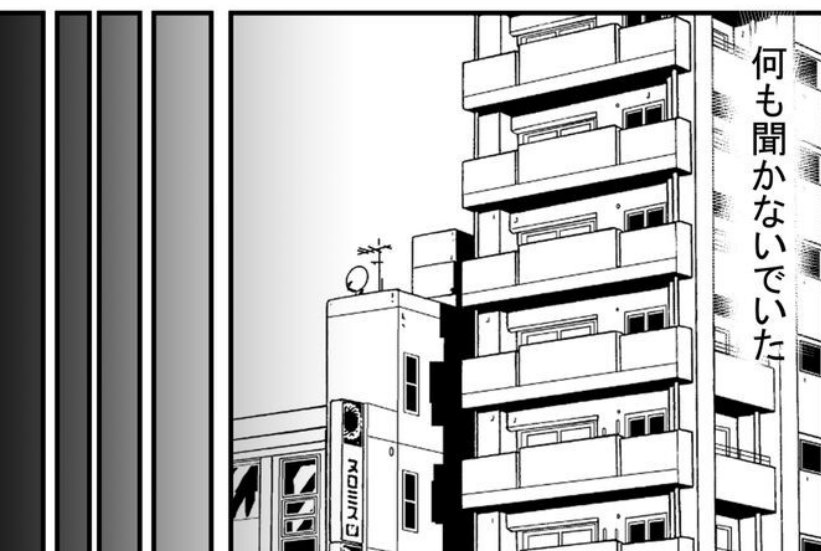
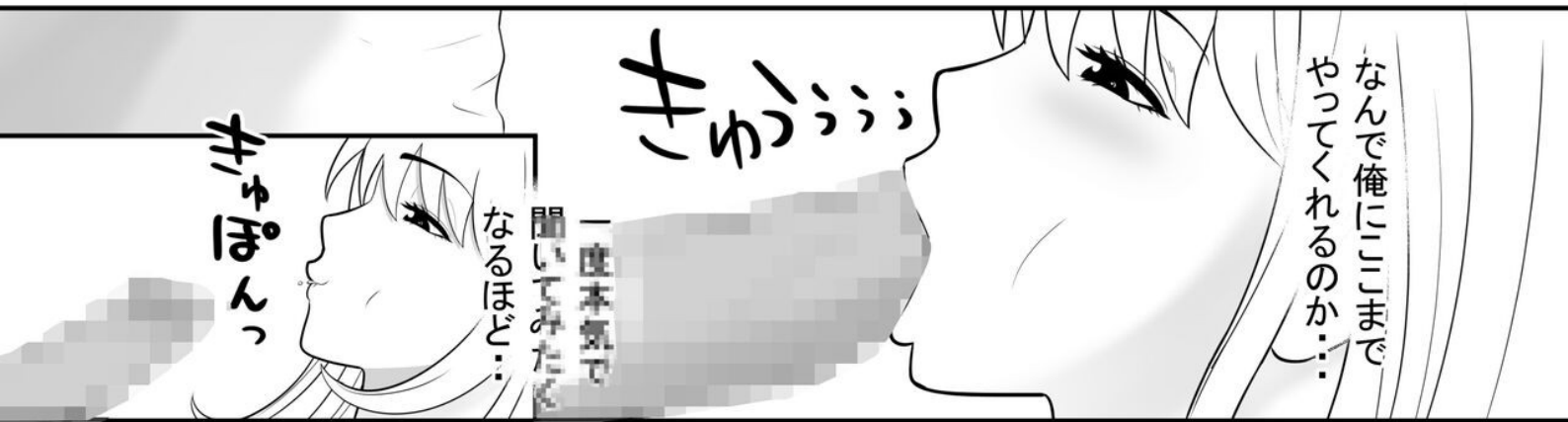
干ッポ

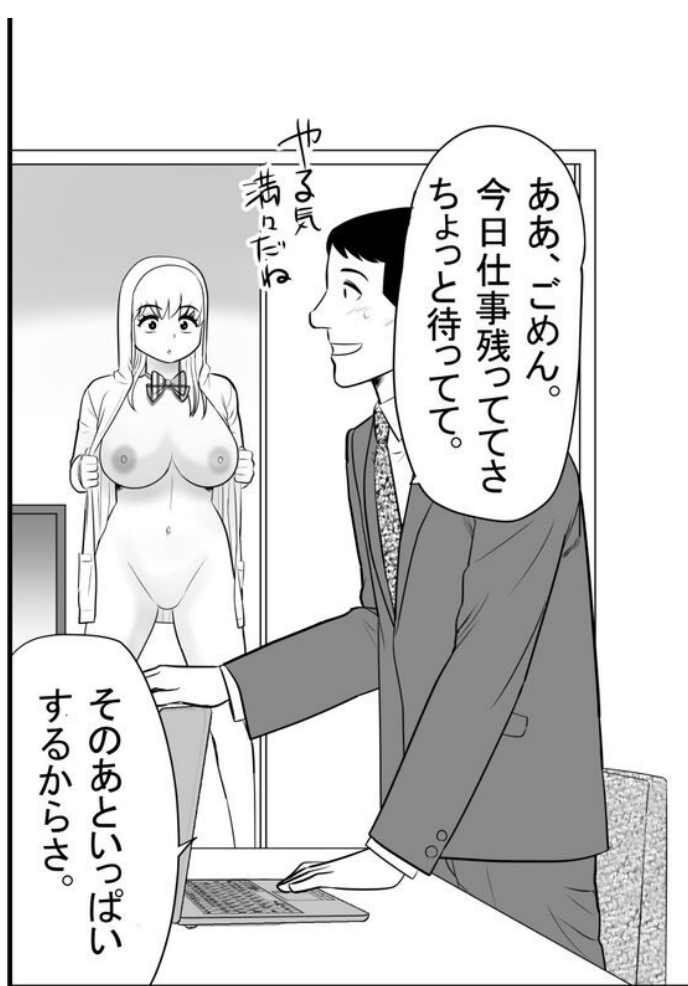
干ッポ

ぬふ



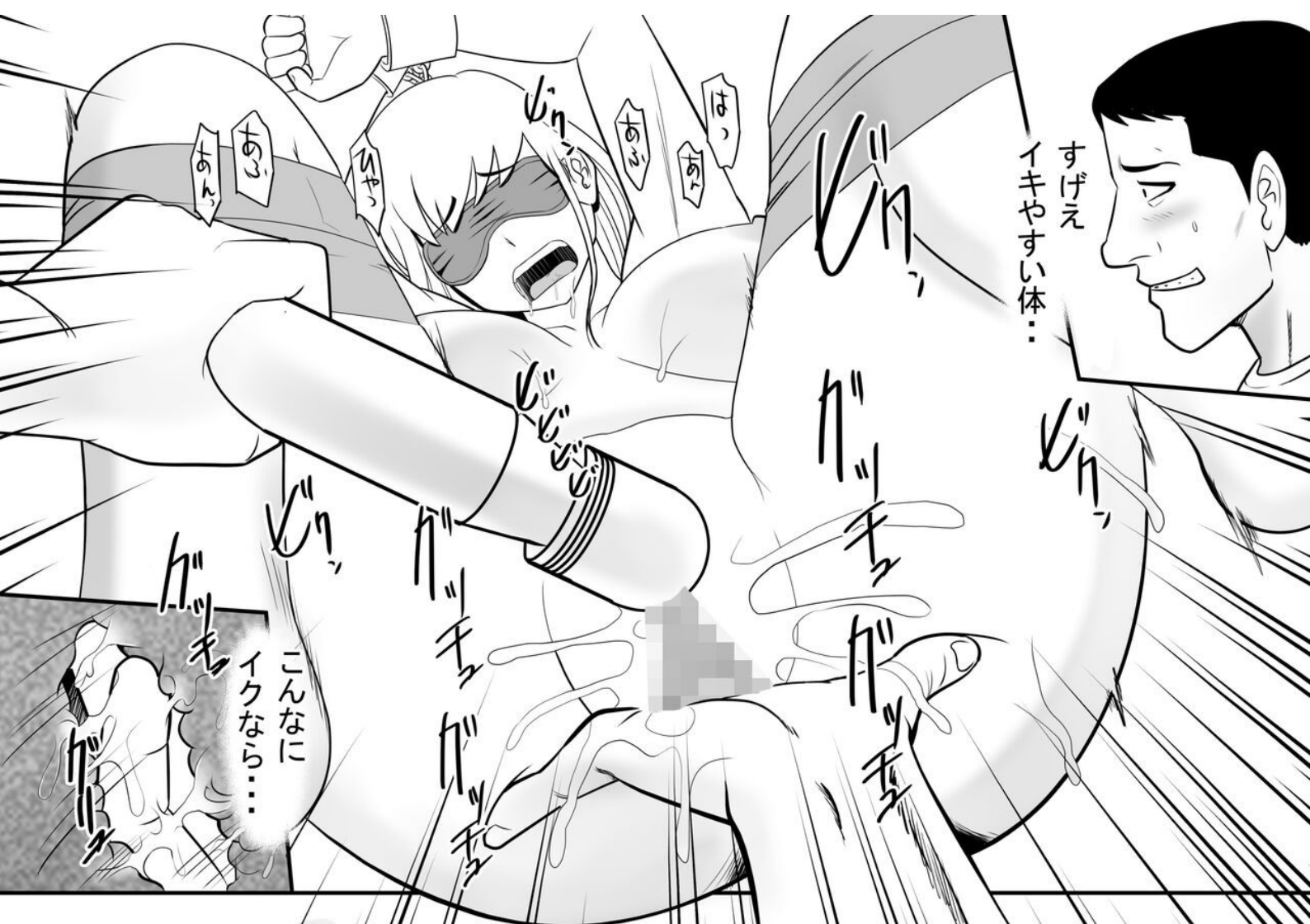






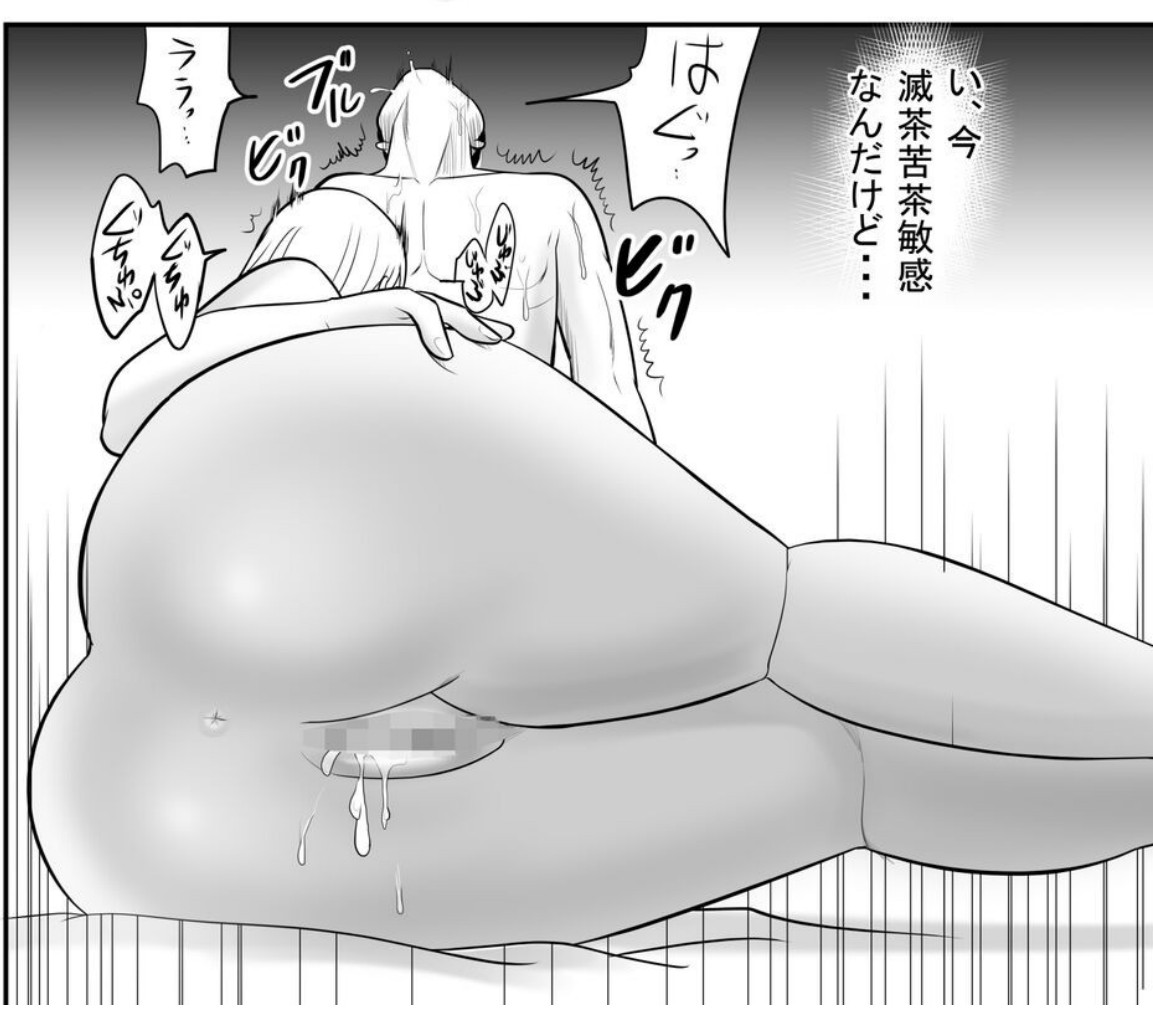


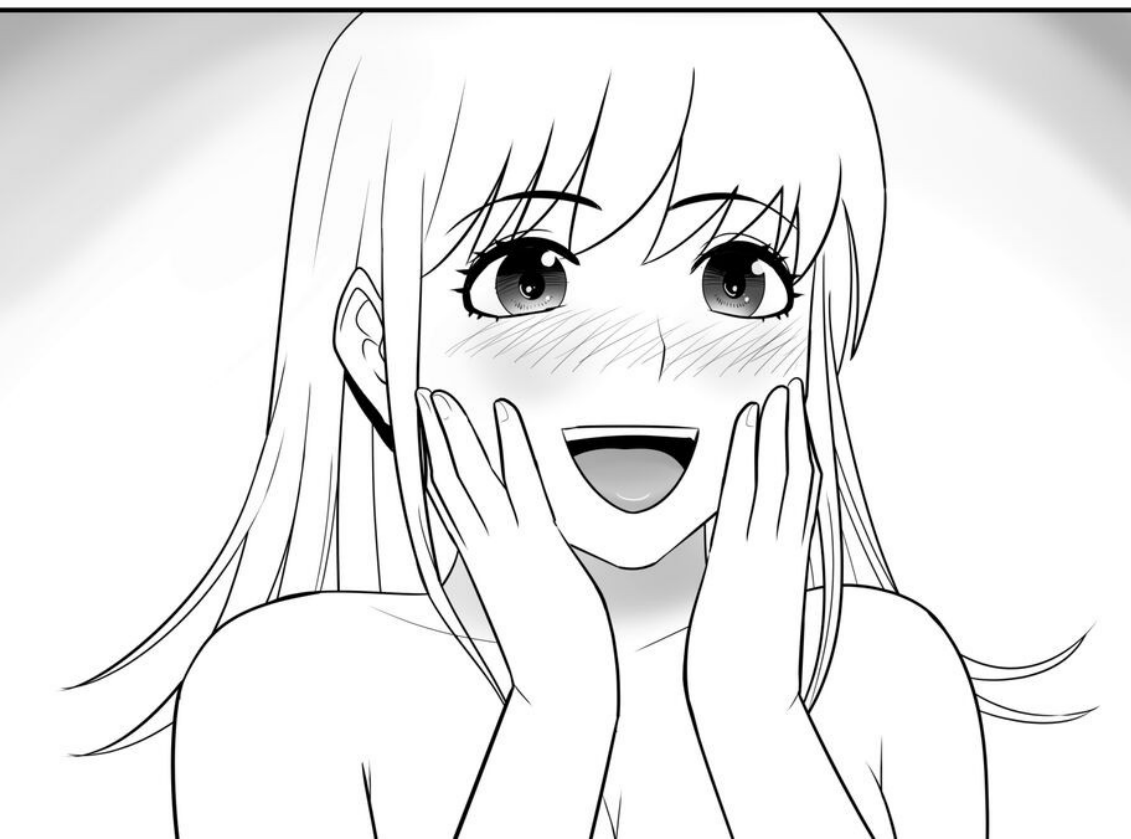
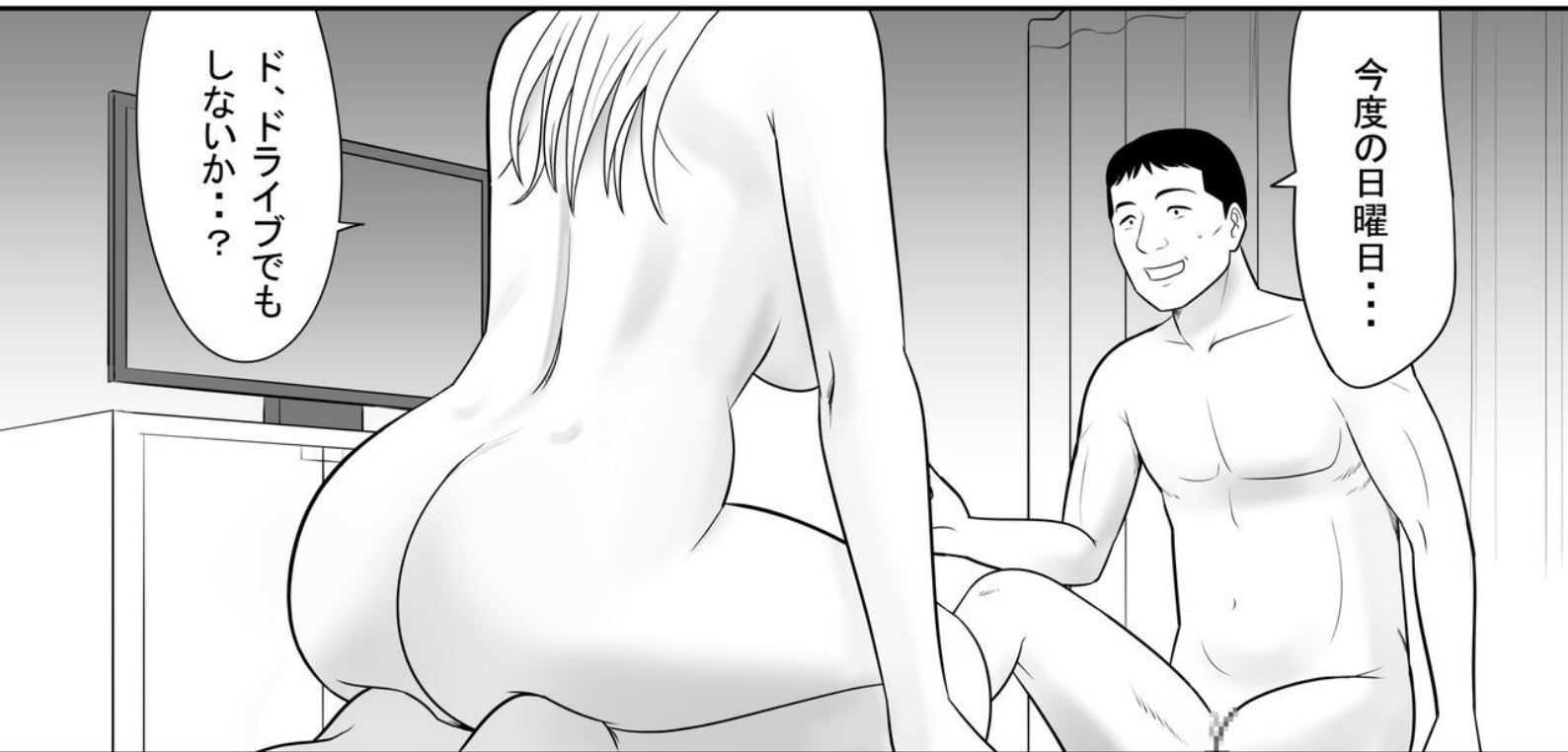


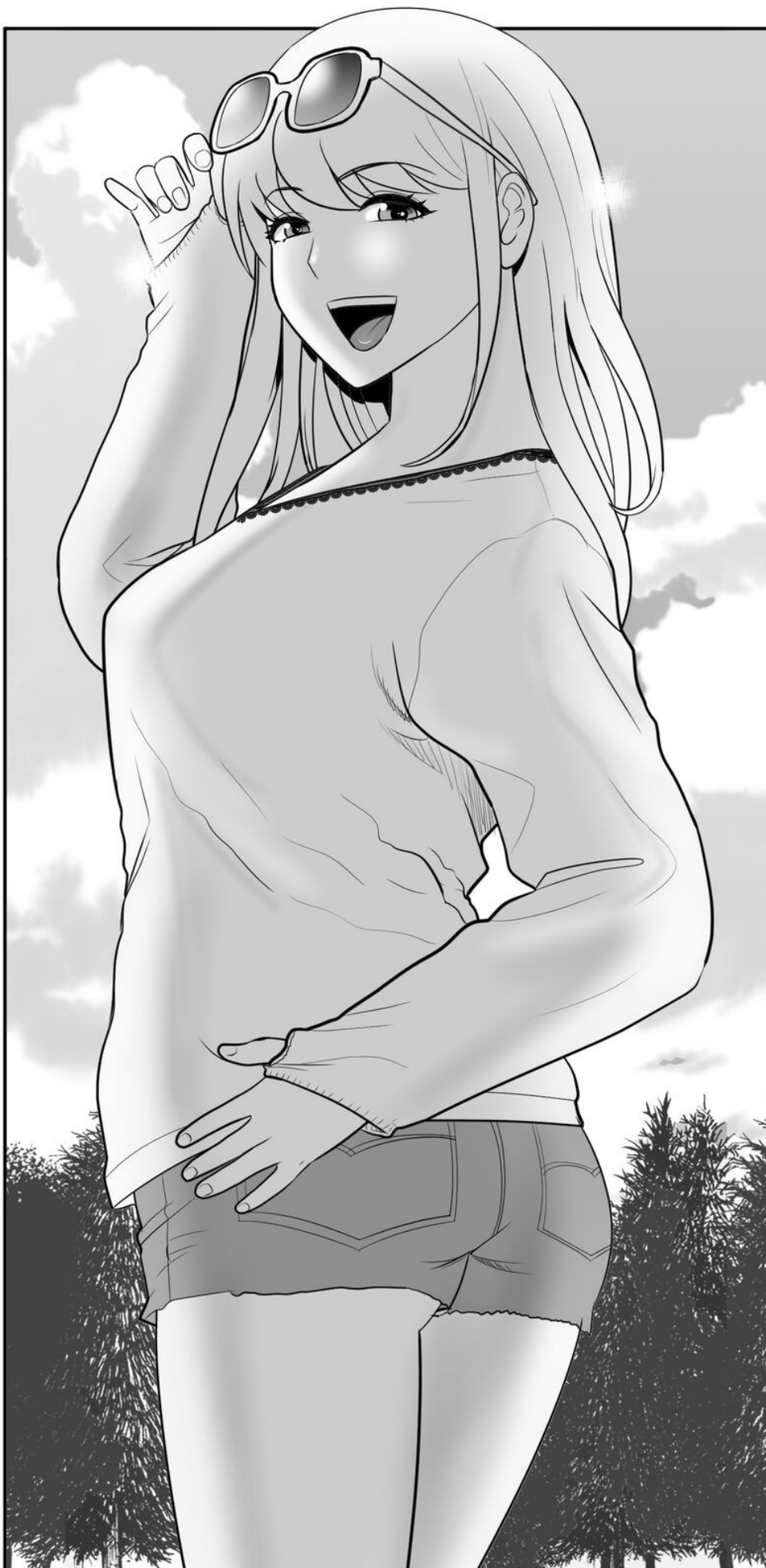
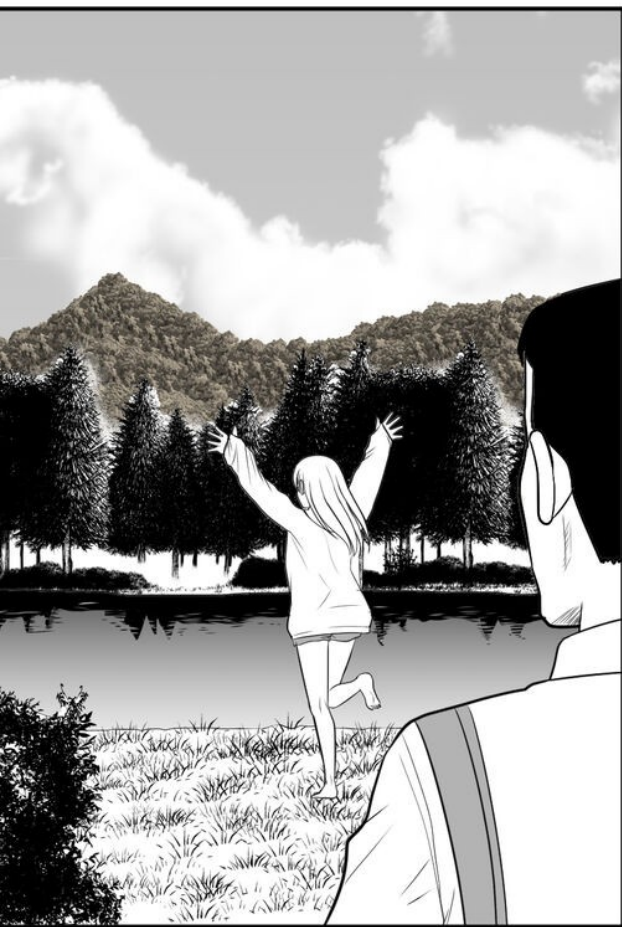












彼女が何を
考えてるのはかは
聞けなかったけど

まあいいかと
思った

